長欠・不登校

「継続数」「新規数」に着目して 来年度に向けて対応を確認してみましょう！

長期欠席・不登校を「継続数（前年度も30日以上欠席の児童生徒の数）」と「新規数（前年度は30日未満の欠席の児童生徒の数）」とに分けて考えてみることで、学校として次に取り組むべきことが見えてくることがあります。来年度につなげていくためにも、今この時期に改めて考えてみましょう。

継続の児童生徒が多い場合

個の対応の見直しと充実

- □ 状態の変化はあるか（改善されている場合は対応を継続）
- □ 関係者が役割分担して取り組む体制が整い、対応の具体が明確になっているか
- □ 学力保障・進路への適切な働きかけはあるか

・ケース会の実施、ステップアップ支援シート等を活用し、複数の視点で見直してみましょう。

笑顔が増える、つながりがもてる人が増えるなども貴重な状態の変化です。

新規の児童生徒が多い場合

未然防止・初期対応の見直しと充実

- □ 遅刻や早退、保健室利用状況等を学校全体で共有し、取組に生かしているか
- □ 児童生徒の絆を紡ぐ場と機会の設定が行われているか（魅力ある学校づくり）
- □ 全ての子が満足感を得られる授業づくりができているか

・全ての児童生徒にとって安心できる学校づくり、気になる子へのアプローチ、SC・SSWとの連携の取り方などを校内で確認しましょう。

参考資料：岡山型長期欠席・不登校対策スタンダード　（H31年３月）
新たな不登校を生まないための不登校対策資料
未然防止・初期対応　Q&A28　（H26年３月）

校内でうまくいっていることと改善が必要なことを洗い出し、来年度の方針を学校全体で共有しましょう。